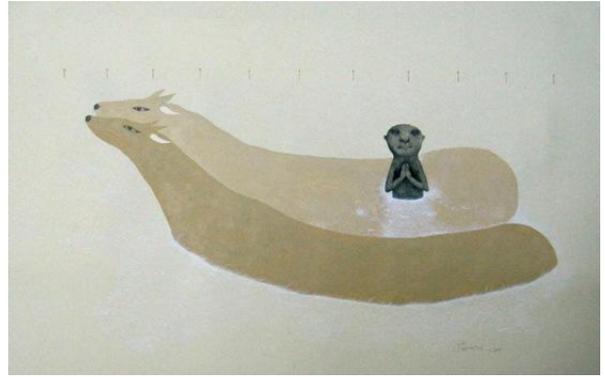


大地から小さな学校のおたより

ブラジル第3アリアンサ富山県日本語学校便り NO15 10月号

10月は、暑くなったり寒くなったりしました。子どもたちの何人かは風邪をこじらせてしまいました。でも風邪が治ると元気に学校へ来ています。なぜなら来月はピンポン大会があるからです。ピンポンの練習が始まる頃、子どもたちは本当に元気です。「先生、今日授業なし、ピンポンの練習する」と日本語で聞いてきます。もちろん、私は「勉強をしっかりしてから、ピンポンは少しだけです」と言う。「アー先生！」と言う返事が返ってきます。この1年間で子どもたちの日本語は本当に上手になってきました。私はもちろんのこと、お父さんお母さん方も本当にうれしそうです。もっともっと日本語が上手になるといいですね。



牛たんがとても美味しいです。



私の好きな食べ物の中に牛たんがあります。この牛たん、日本で食べるとそれなりにお金を払わないと食べられませんね。それも焼肉屋さんで食べようと思ったら、薄切りの牛たんです。ここブラジルでは、牛たんを食べる習慣がありません。そしたら牛たんは1kg 3から4レアル（150から200円）程度でとても安いんです。これはブラジル人にとってもとても安い値段です。

牛たんが好きだとホームステイ先のお父さんお母さんに伝えたら、月に1度、牛たんバーベキューをしてくれるようになりました。分厚い肉でとても柔らかく、味もしっかりしていて本当においしいです。ちなみに、ここアリアンサの人たちは牛肉の「クッピン」という箇所の肉が好きだそうです。この「クッピン」は牛のこぶ肉のことです。見た目は霜降りですが、やや歯ごたえがあり、噛むとじわじわと肉の味がしてきます。これも本当においしいですよ。

木を切ることはとてもたいへんなことになります。

今月に入り、学校の木がなくなりました。なぜなら村の人たちが写真のように木を切ってしまったからです。ほとんど枯れかかっていた木を切ったのですが、ブラジルでは無断で木を切ることは違法です。ですから、今回は切る前にしっかりと役所に届出をしてから切りました。しかし役所に木を切ることを伝えればそれで良いわけではありません。さらに法律では、1本の木を切ったら、9本の木を植えなければならないのです。失われた自然を取り戻すためにこのような法律ができたそうです。

今回はおよそ10本ほどの木を切ったので90本の新しい木を植えることになります。植える木は、黄色のイッペイの木だそうです。これらの木が大きくなると、とてもきれいな花が咲き、日本語学校もまた景色の美しい学校へかわりそうです。その頃には私は当然いませんが、リオデジャネイロオリンピックが開催される頃には、素晴らしい景色を見ることができそうですね。



今回の昼食会では牛2頭



今月は昼食会が開かれました。今回の昼食会では、なんとバーベキューも出すことになったのです。12RS(600円)で食べ放題。いろいろなおかずと共にこの焼き肉も並びました。今回は500人ほどが集まり、いつもたくさんのお客さんが来ます。

ちなみにこの牛は、自分たちで殺して調理しました。日本ではあまり見慣れない光景ですね。ここアリアンサでは、昔から豚の丸焼き、鳥の丸焼きなども自分たちで調理してきたと聞きましたが、時代と共に、スーパーで買ってきた肉を調理することの方が多くなってきたとも聞きました。ですので、今回は本当に特別な光景だそうです。

今月の夜学は「にぎり寿司パーティ」

今月の夜学は「にぎり寿司パーティ」をしました。以前私の父は調理師であることをお伝えしましたね。私は小さい時から、両親と一緒によく料理をしたものです。父からは寿司の握り方も教わりました。しゃりの量、刺身の切り加減、優しく包むようにして握るなど、技術が必要です。私は昔のことを思い出しながら、この夜学を試してみました。

アリアンサでは日系人が多いのももちろん刺身を食べる習慣があります。しかし、海から遠いアリアンサで海の魚を手に入れるには、100キロ離れた町まで買い出しに行かなければなりません。今回はそこで買ってきたサーモンでにぎり寿司を試してみました。参加した人たちも初めは握った人がほとんどでしたが、とても美味しく仕上がりました。



「びゅんびゅんごま」は日本文化なのでしょうか？



今月は子どもの日がありました。そのため、授業では遊びを用意して、みんなで遊んでみました。あやとりとびゅんびゅんごまをしたのですが、なんと子供たちは、びゅんびゅんごまを知っていました。子どもたちに話を聞くと、お父さんに教えてもらったと言っていました。日系人が親であれば確かに子どもの遊びは継承されます。でも非日系の子どもたちも知っていたので、私は「オヤッ？」と思いました。私の良くないところは、自分の生き立ちを考え、その環境の中で培ってきた遊びなどはすべて日本文化だと思ってしまうところです。きっと、その環境で接してきた遊びは確かに自国にある文化ですが、それが独自の文化というよりは、世界で共通した遊びもいくつかあるの

かも知れないという発想が大事なのかもしれません。

例えば「凧あげ」と聞くと、なんとなく日本文化だと想像してしまいます。しかしこれほどこの国に行ってもある文化です。違いは形であったり色であったりします。またどういう時に凧あげをするのか、それも国によっては違いますね。きっと「かくれんぼ」もいろいろな国にあるのかも知れません。

そう考えると、身近なものを使った遊びは共通したものが多く、意外にも世界中の子どもたちが同じような体験をしていることを想像することができます。そして、私は外国文化を知らないで、日本文化を考えると、ちょっとした勘違いも生まれてしまうのだと分かりました。もっともっと外国を知りたくなってきました。きっとそのことが日本文化を知ることになるのではないかと思うようになりました。